



「ダイヤナ」「君はわが運命」  
「クレイジー・ラブ」。わたし  
と同世代の人なら、にやりとす  
るはずである。ロカビリーは、  
ロックンロールとウエスタンの  
ヒルビリーの合成語であるらし  
い。わたしはジェリー藤尾が歌  
う「遠くへ行きたい」が好きだ

った。なんだか、わたしのこれ  
からの韋駄天ぶりを暗示するよ  
うな歌であった。

小説「人間の條件」が刊行  
され、映画やテレビになり、日  
活映画「太陽の季節」が封切ら  
れた。「もはや戦後ではない」  
が流行語となり、皇太子妃に美

するようにならされた。伊万里  
市ゆかりの文化人に頼んでいる  
そうである。もちろん、二つ返  
事で引き受けた。伊万里は青春  
の地である。いまでも路地を歩  
くと、好きだった人がセーラー  
服でひょいと飛び出して来る錯  
覚に陥る。

しかし、それはそこから離れた  
人の感傷であって、そこで生き  
ている人には迷惑な話である。  
陶芸は大川内山の虎仙窯から  
始まった。師匠は川副秀樹さん  
である。大川内山の風景は異郷  
の山水画を思わせる風景であ  
る。陶芸をしているとウグイス

か。  
伊万里市の担当は吉原和子さ  
んであった。この人も和子であ  
る。虎仙窯が忙しくなり、吉原  
和子さんの仲立ちで渚窯へ移る  
ことになった。渚窯は伊万里の  
外れの山あいにあつた。師匠は  
高木和安さんである。渚窯では  
本格的に龍や鬼を作つた。龍は  
おくんちの龍踊の龍である。  
鬼も赤鬼と青鬼を対で作つた。  
このふたつも我が家の玄関に飾  
つてある。

## 陶芸青春の地から

智子さまが選ばれたことが発表  
された。「ミッチーブーム」が  
起こり、皇室の民主化が唱えら  
れた。

伊万里の駅舎もすっかり新し  
くなつてしまった。わたしは昔  
の木造りの伊万里駅が好きであ  
る。明治や大正、昭和初期の映

が鳴いたりする。3時には女将  
さんがお茶とたくあんを運んで  
くれる。このお茶とたくあんが  
うまかつた。大皿に歌舞伎役者  
の絵を描いた。絵を描くのは少

年時代から好きだった。その大  
皿はいまも我が家に飾つてあ  
る。人にもあげたが、どうした  
か。  
高木師匠とは、いまでは夜の  
伊万里を飲み歩く仲である。高  
木師匠は「陶芸の腕はよかです  
よ」とわたしを褒めてくれる。  
おだて上手である。しかし、そ  
の夜の酒はうまい。

わたしが伊万里で陶芸をやる  
ようになったのは平成8(199  
9)年の佐賀の博覧会か  
らである。伊万里市から陶芸を

画の撮影がやれる雰囲気があつ  
た。わたしの好きな映画「故郷  
は縁なりき」にも昔の伊万里駅

にそっくりの駅舎が登場する。

（松浦市出身）